安全報告書 2011

この報告書は、長良川鉄道における鉄道輸送の安全確保を図る目的のために実施した結果等について公表するものです。
取組み等について、ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

お問合せ先
郵便番号　501-3881
住　　所　岐阜県関市元重町７４番地１
電　　話　0575-23-3921
ＦＡＸ　0575-23-3927
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　soumu@nagtetsu.co.jp

平成２３年８月５日

長良川鉄道株式会社

安　全　報　告　書

【はじめに】

日頃は、長良川鉄道のご利用とご理解を賜り厚くお礼申し上げます

長良川鉄道も、開業後 24 年が経過しましたが、今後も皆様が利用しやすい・高齢弱者にやさしい・地元に愛される「市民鉄道」をめざし取り組んでまいります。

更に、平成 23 年 1 月 1 日からは精神障害者(50%)割引制度も新設しました。

長良川鉄道は、経営理念の第一に安全輸送を掲げ、法令を遵守するとともに、安心・安全な鉄道輸送を引き続き心がけてまいります。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、輸送の安全確保のための取組みや安全の実態について、自ら振り返るとともに広くご理解頂くために公表するものです。

長良川鉄道（株）　　代表取締役社長　　日置敏明

１．　基本的な方針

【基本姿勢・基本方針】

社長及び社員は、経営理念の第一は、安全輸送である。このことを十分認識し事業活動を行い輸送の安全を確保する。

社長、役員及び社員等の安全に係る規範は、次のとおりとする。

（１）　一致協力して輸送の安全の確保に努める。

（２）　輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、忠実に職務を遂行する。

（３）　常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努める。

（４）　職務の実施にあたり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いに努める。

（５）　事故・災害が発生した時は、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全適切な処置に努める。

（６）　情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保する。

（７）　常に問題意識を持ち、必要な変革に努める。

平成 23 年度強調項目

（１）　運転　　指差確認換呼の励行

（２）　営業　　全員がセールスマンとなって増収活動

（３）　技術　　確認の励行と連絡の徹底

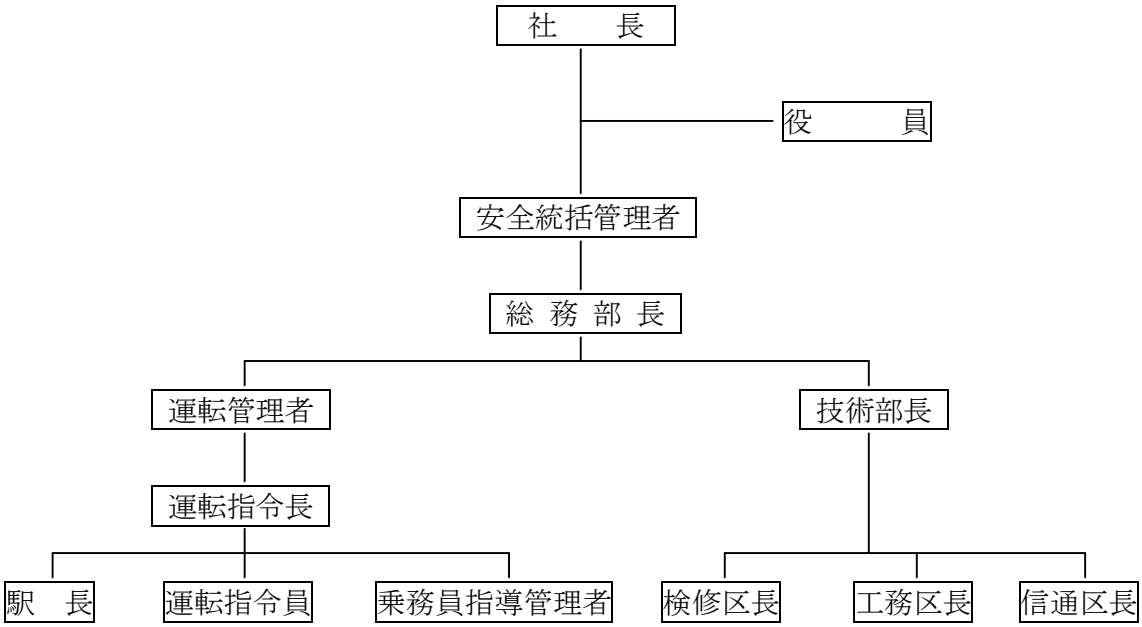
【安全目標】

長良川鉄道では、鉄道運転事故のゼロを目指して取組んでまいります。

安全管理体制の方法

社長をトップとする安全管理組織を構築し、各責任者の職務(責務)を明確にしています。

【安全管理体制】



【責任者の役割】

社　　長　：　社長は、輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。

安全統括管理者　：　輸送の安全の確保に関する業務を統括する。

総　務　部　長　：　輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。

運 転 管 理 者　：　安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。

乗務員指導管理者：　運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。

技　術　部　長　：　安全統括管理者の指揮の下、鉄道施設、車両に関する事項を統括する

２．　事故等の状況及び再発防止措置

（１）鉄道運転事故

平成 22 年度において、鉄道運転事故は発生しておりません。

（２）踏切障害事故

長良川鉄道では、平成 22 年度において踏切障害事故 6 件が発生しました。

踏切障害事故　６件　（うち１件は踏切道内での自殺）

※　美濃白鳥駅～白鳥高原駅間の第３種(警報器付き)踏切で、軽乗用車が一旦停止をしないで踏切道に進入したため列車と衝突した。軽乗用車は大破し運転者は死亡した。【直前横断】

※　関口駅～刃物会館前間の第４種(踏切保安装置なし)踏切で、踏切道内で蹲る女性を発見し停止手配を取ったが接触した。女性は死亡【自殺】

※　相生駅～郡上八幡間の第１種(遮断機・警報器付き)踏切で、踏切道内で虜になり、自動車から降りて停止合図するも間に合わず衝突した。【ゲガなし】

※　富加駅～関富岡間の第４種(踏切保安装置なし)踏切で、自転車を押して横断する女性を発見し停止手配を取ったが衝撃した。女性は死亡【直前横断】

※　前平公園駅～加茂野駅間の第４種(踏切保安装置なし)踏切で、自転車に乗って横断する高校生を発見し停止手配を取ったが列車と衝突した。【高校生は軽傷】

※　加茂野駅～富加駅間の第４種(踏切保安装置なし)踏切で、直前横断する小学生を発見し汽笛吹鳴すると共に停止手配を取ったが衝撃した。【小学生は軽傷】

郡上八幡～相生間　穀見踏切事故現場

【発生状況】

2 件の事故は、自動車が安全確認をしないで踏切道に進入したため列車と衝突した事故で、2 件とも、踏切保安装置(警報機若しくはしゃ断機)が設置してある踏切道でした。

【再発防止措置】

※　2 件の踏切事故が発生した、郡上市は前年度より続く踏切事故を受け「緊急対策会議」を開き、最近事故が発生した踏切道についてカラー舗装を施して事故防止に努めました。　　(市内 7 ヶ所を実施)

※　美濃加茂市、加茂警察署、交通安全協会及び鉄道事業者は第 4 種踏切での事故が多く発生することから、通学路の変更・カラー舗装・地域の見守り隊による踏切通行指導など行い事故防止を図りました。

※　引き続き沿線の広報紙に「踏切では必ず一旦停止を」の記事を掲載してもらい事故防止に努めました。

過去 5 ヶ年の踏切障害事故件数は以下のとおりです。

年　度	2006	2007	2008	2009	2010
事故件数	1	1	2	5	6
死傷者	1	1	1	3	5
うち死亡者	0	1	0	1	3

（3）　災害

平成 22 年度において、災害の発生はありませんでした。

（4）輸送障害　(30 分以上の遅延や運休)

設備・車両の故障等による輸送障害　18 件

部内原因　6 件

部外原因　12 件　踏切事故　　6 件

降雨による運転規制(列車徐行)　　3 件

積雪による運転休止　1 件

線路内支障　脱輪等　2 件

奥美濃地方は平成 23 年 1 月 16 日から大雪となり、積雪が郡上市長滝で
117ｃｍの積雪を観測したが列車の全面運休はありませんでした。

深戸～相生間　集中豪雨による土砂流入現場

早期復旧作業にあたりました

（５）インシデント(事故の兆候)

平成 22 年度において、国土交通省へのインシデント報告はありません。

（６）行政指導等

平成 22 年度において、国土交通省からの指示・勧告の指導はありません。

３．安全確保のための措置

長良川鉄道では、輸送の安全を確保するために、国、県及び沿線市町の支援による、鉄道軌道輸送対策補助事業、地方鉄道再生計画支援事業費補助を活用し、設備等の更新、改良に取組んでいます。

【安全重点施策】

○鉄道軌道輸送対策補助事業

計画安全事業　〔橋脚補修･橋桁塗装〕　第 3 上の保川橋梁
事業費　　18,840 千円

計画安全事業　〔コンクリートマクラギ化〕　福野～美並苅安間　他
事業費　　67,296 千円

計画安全事業　〔通信ケーブル更新〕　関～湯の洞温泉口間
事業費　　62,500 千円

○レールの敷設状況

レール種別	開業時の状況	平成 22 年度末の状況	敷設割合
５０kg	21,396m	46,655m	63 パーセント
４０kg	77m	4,042m	5 パーセント
３７kg	7,968m	1,505m	2 パーセント
３０kg	44,959m	22,198m	30 パーセント
合　計	74,400m	74,400m	100 パーセント

○コンクリートマクラギ化

敷設実績　　敷設本数　24,149 本　　敷設延長　18,927m　　敷設率 26 パーセント

長良川鉄道では、平成 4 年度から、保安度の向上(安全性)と保守作業の軽減を目的として、木マクラギからコンクリートマクラギに取替えを行っています。

○踏切改良実績

	第１種	第３種	第４種	合　計	廃止踏切
開業時	５４	３１	６７	１５２	
平成２２年度末	８９	１７	３３	１３９	１３

【社員への安全教育指導】

長良川鉄道では、社員の技術・技能の向上のため、各部門とも年４回の業務研修会を開催しています。

運輸部門	第一四半期	6/1～3	事故事例・異常時対応
	第二四半期	7/21～23	事業決算・地域公共交通の動向
	第三四半期	12/13～15	救急救命訓練(心肺蘇生法・止血法)
	第四四半期	3/14～16	東日本大震災について　(防災)

技術部門	第一四半期	4/12	列車防護訓練・年度事業計画
	第二四半期	7/21～23	事業決算・地域公共交通の動向
	第三四半期	12/3	冬期対策(MC ラッセル取扱訓練)
	第四四半期	3/15	各通達指導・次年度事業計画

※　中部鉄道協会主催の土木・電気・車両講習を受講

※　岐阜県第三セクター鉄道主催の安全講習を受講

※　技術部検修区においては、故障事例に基づき勉強会を実施

消防組合の指導による救急救命訓練風景

【安全対策の内容】

踏切事故防止対策

長良川鉄道では、踏切事故防止キャンペーンの実施に基づき、行政・警察の協力により啓発活動を実施しました。

平成 22 年　9 月 21 日　　啓発指導の実施　　7 踏切

事業者(14 名)、行政・警察(13 名)が参加し踏切事故防止活動を行った。

【安全輸送のための投資】

長良川鉄道は、平成 16 年度から、県・沿線市町のご支援により修繕費を負担して頂いています。平成 22 年度は、修繕費総額 65,763 千円で施設の維持・保守を実施しています。

平成 22 年度の修繕内訳は以下のとおりです。

※　線路修繕費　　26,469 千円

各種マクラギの取替え(並・橋・分岐マクラギ)

軌道整備・線路除草等

※　電路修繕費　　16,989 千円

ケーブルの取替え

列車無線の法定検査・踏切保安装置補修等

※　車両修繕費　　21,945 千円

全般検査よる、エンジン整備・コンバーター整備等　　……　法定検査

重要部検査による、エンジン点検・コンバーター点検等　…　法定検査

※　その他修繕費　　360 千円

【緊急時対応訓練】

長良川鉄道では、早期の人命救助と事故復旧を目的として、定期的に関係業務機関と連携して訓練を実施しています。

平成 22 年度　中濃消防組合の指導のもと救急救命(心肺蘇生法・止血法)訓練を実施しました。

また、踏切事故が多く発生したことを踏まえて、加茂警察署・関警察署・郡上警察署の各署と連携し踏切事故防止に努めた。

４．利用者・社員との意見交換

【利用者との意見交換】

長良川鉄道の利用者は、年間 77 万人のご利用があります、うち、５１パーセントが通学生の利用です。こうしたことから、通学生と定期的に意見交換し改善に努めています。

【社員との意見交換】

長良川鉄道では、社員の安全意識の向上を目的とし、毎年１回全社員を対象に社員研修会を開催しています。

平成 22 年度は以下のとおり開催しました。

※　1.日　時　平成 22 年 7 月２１日～　２３日　　10:15～12:15

2.場　所　元重公民センター

3.訓　示　社長より経営・安全について訓示

4.懇談内容(意見)

・災害箇所の徐行信号機設置について

【臨時信号機を設置する。】

・乗客減少対策として、豆バス等の連携を図るべきではないか。

【各市町とも乗継については連携を図っていが再度協議する。】

若年層社員との意見交換

※　1.日　時　平成２２年１２月１０日　　17:30～20:00

2.場　所　元重公民センター

3.参加者　現業若年層　15 名

4.議　題　提案・要望について意見交換を行った。

以　上